

「学ぶ・わかる・面白い」 授業をつくる



論文の作成法を段階的に学ぶ

琴坂先生が最初にmanabaを使ったのは、1年生の小規模授業「基礎演習」のプロジェクトでした。授業の目標は、グループごとに論文を作成すること。しかし、1年生は論文の作成手法を学んでいないため、その手順を毎週の課題にしました。「それまでは授業時間に課題を提出させていましたが、manabaを活用することで、提出期限を授業の1~2日前の深夜に設定することが可能になりました。提出された課題をもとに、授業までに学生の理解度を把握し、授業計画を立てられるようになったのは大きなメリットですね」とその効果を話します。

こうした方法で授業を続け、学生が論文の作成方法を習得できたのは大きな成果。1年生でも高度な分析方法を使えるよ

うになり、修士レベルの論文を完成させた学生もいたのだそうです。

学生の理解度を把握する

小規模授業で手ごたえを感じた琴坂先生は、毎回受講者数が500名を超える大規模授業「国際経営論」にもmanabaを導入しました。「海外の授業は少人数なので、レポートや発言から理解度を知ることができますが、500人規模の授業では難しい。多くの学生の理解度をどう把握するかが課題でした」。そこで活用したのが小テスト・ドリルです。小テストは、毎回授業の後に公開。テスト内容は一人ひとり異なり、その日の授業に関する問題10~20問の中から5問がランダムに出題されます。授業でノートを取っていないと解答できない設問になっているのもポイント。学生が

授業を真面目に聴講し、内容を理解しているかを分析するのに役立っているのだそうです。

学習意欲を高め、 集中力を持続させる

しかし何より、琴坂先生がメリットを感じているのは、学生の学習意欲が向上したことです。「『大学の授業でこれだけ真剣にノートを取ったのは初めて』という学生もいました。学生は、小テストの偏差値や平均点、自分の順位や点数の推移も閲覧できるので、それが授業を真面目に聴き、勉強するモチベーションになっているようです」。さらに、出題形式を記述式や、文脈を理解していないと解答できない問題に変えるなど工夫して難易度を上げたことも、学生の集中力維持につながりました。

manabaの出席機能（アンケート）も、

タイトル	提出方法	状態	受付開始日時	受付終了日時	チーム数
ディベート課題の提出	チーム	受付終了	2014-05-01 16:10	2014-05-08 14:40	4
前期論文作成・テーマの決定	チーム	受付終了	2014-05-08 14:10	2014-05-14 23:55	5
状況、複雑性、調査課題、作業仮説	チーム	受付終了	2014-05-17 22:00	2014-05-21 10:00	5
収集した二次情報の一覧	チーム	受付終了	2014-05-22 14:10	2014-06-02 10:00	5
調査手法（および、調査課題と先行研究）	チーム	受付終了	2014-06-09 12:00	2014-06-11 10:00	5
発見と議論の追記	チーム	受付終了	2014-06-18 09:00	2014-06-19 13:00	5
完成論文の提出	チーム	受付終了	2014-06-21 22:00	2014-07-01 23:55	5

2 51732 51732:国際経営論 (BB) 2014 前期:前期 木... 履修者数:561名
担当教員:琴坂 将広
受付番号: 6057731 <https://ctat.ritsumeai.ac.jp> 受付終了

提出者数:536名

Q1. 現代の経営学が抱える最大の課題は何か? (50字から100文字。つまり出来るだけ簡潔に一貫で。) 表示する 表示しない

社会科学である経営学は、確率論や統計を使用するため結果のばらつきが大きい。よりばらつきの少ない一般化した結果を導くためのプロセスを考え出すことが課題だ。経営学は異なる二面性を持つ学問であるから、どちらの面もそれぞれの期待があり、一方に偏って考えることはできない。経営学は現実を認識している、しかし認識や解釈は複数あるという先生の講義を聞いて、現代の経営学が抱える最大の問題は、経営学は複数の考え方、捉え方があり、これが正解だ、ということが明確に言えないことだと思う。

1 基礎演習Iのプロジェクト一覧画面です。履修生を5グループに分け、それぞれ課題に取り組みます。グループで提出した課題は、他のグループの学生も相互に閲覧できるように設定してあります。

2 国際経営論の出席カード提出状況確認画面です。カードタイプはアンケートを用いて、授業前に予め設問を設定します。授業では、学生が回答した後にこの画面をスクリーンに投影しています。

学生の集中力を高めるのに一役買いました。「日本の学生はシャイなので、大勢の前で意見を言える人は少ない。でも、出席機能（アンケート）を活用すると、全員が意見を書いてくれたんです」。みんなの前で発言できない学生も授業に参加できるよう、書かれた意見は教室に投影。その内容を引用して授業を進めると、学生は集中して講義を聴くようになったそう。「大規模授業でも学生の意見を講義内容に反映できるのは、manabaの特色ですね」。

予習・復習のくせをつける

「manabaの助けを借りれば、予習・復習のくせをつけることも可能です」と琴坂先生。小テストでは、第10回目を超えた頃から、その日の授業内容に加えて、これまでの問題からランダムに出題しました。学生は過去の授業を復習しなければなりません。必要な教材はすべてmanabaで公開。学生はスムーズに復習に取り組むことが

できたそうです。

一方、予習のくせづけには課題提出機能を活用。授業の前日までに予習として課題を提出させ、それらに基づいて授業を行いました。すると学生は、「予習をすると先生は必ずフィードバックしてくれる」と予習に真剣に取り組むようになったそうです。

多彩な機能を使いこなす琴坂先生。「manabaの力を借りれば、授業の質、学生の学習意欲を高めることが可能です。今後も工夫して使いたいと思います」と意欲を見せてくださいました。



授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席